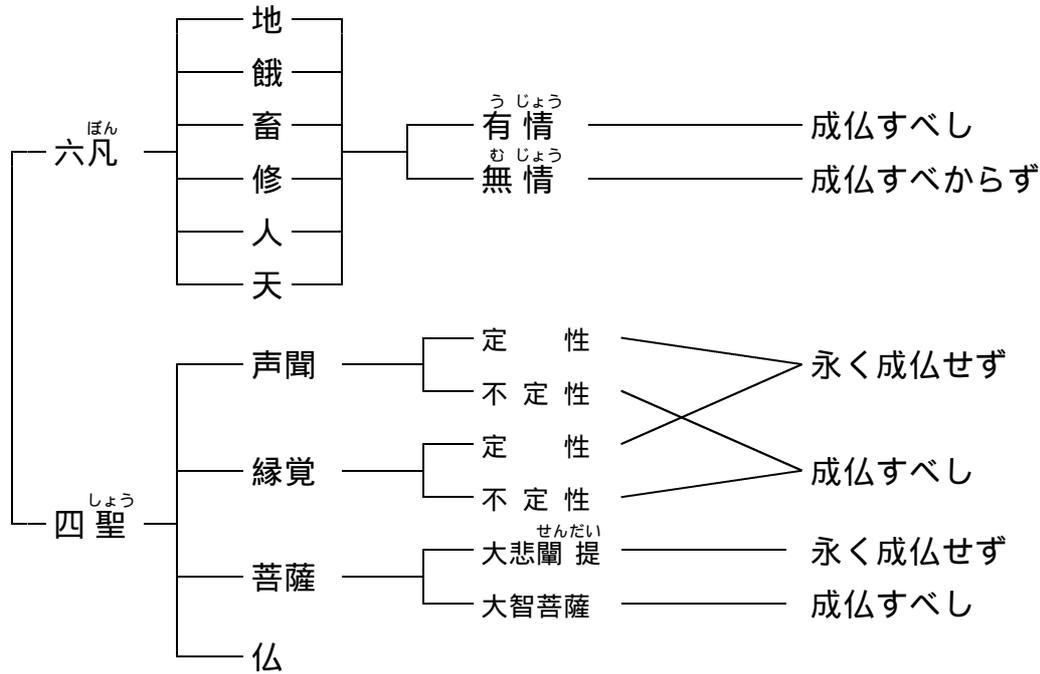


# 六凡四聖御書

正嘉元年 三六歳



もんく  
 文句の四に云はく「二乗作仏は今の経より始まる」と。せん  
 籤の一に云はく「菩薩は処々  
 に入ることを得、二乗は唯法華に在り」と。弘の六に云はく「遍く法華已前の諸経を  
 尋ぬるに、実に二乗作仏の文及び如来の久成を明かすの説無し。故に知んぬ、並びに  
 方便を帯するに由るが故に」と。もんく  
 文句の七に云はく「他経は但菩薩に記して二乗に記せ  
 ず」と。譬喩品に云はく「我昔仏に従ひて是くの如き法を聞き、諸の菩薩の授記作仏を  
 見しかども、而も我等は斯の事に預からず。甚だ自ら如来の無量の知見を失へるを感  
 傷しき」と。法華経第五に云はく「始め我が身を見、我が所説を聞いて即ち皆信受して  
 如来の慧に入りき」と。